

世帯と人口

(4月1日現在)

世帯 44,112 (-10)
 人口 118,911人 (-323)
 男 60,708人 (-176)
 女 58,203人 (-147)

広報えびな

編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

*この広報は再生紙を使用しています。

今年のサクラは「こも巻き」を取りはずし(写真下)後、2週間で異例の満開を迎えた



えびな模様…柏ヶ谷から

桜とともにたくましく

今年のサクラの開花は異例の早さでした。こも柏ヶ谷小学校の校庭でも4月の入学式を待たずに満開になりました。

写真のサクラを始め、同校庭の樹木には冬の間「こも巻き」(※)が施されています。3月8日には取りはずし作業が行われ、集まった児童らは環境に負担をかけない駆除作業を目の当たりにしました。同小では、日ごろから「生命のつながり」や地球環境について体験的に学ぶ活動を展開しています。

元気で明るく地域づくり

その理由の一つに「この地域が住宅や工場、商店などが混在し、子どもたちが動植物と接する機会が少ないこと」を小林次男校長は挙げます。「半面、下町の雰囲気があるせいか、子どもたちには雑草のようたくましさがありますね。元気で明るく、大きな行事には驚くほど積極的に取り組みますよ」。

「元気でたくましいところは今も昔も同じ。私の子供時代もみんなで野原を駆け回って遊んでいましたよ」と振り返るのは、柏ヶ谷で生まれ育った自治会長の土屋孝光さん。現在の柏ヶ谷については、「昔のような向こう三軒両隣の密度の濃い付き合いはないけれど、住民はとても協力的。声をかければ気持ちよく協力してくれ、エネルギーあふれる人が多いです」と話します。「年に1度の『柏ヶ谷ふるさとまつり』も大いに盛り上げて、これからも住んでよかったと思える地域づくりの手助けをしていきたい」。

校庭のサクラは、同小が分校だったころ植えられ、同小創立の昭和39年、現在の地に移植されました。「当時は細く小さかったんですよ」と土屋さん。時を経て大きく成長したサクラは、花、葉桜、紅葉、落葉と季節ごとに姿を変えながら元気な柏ヶ谷の人・まちを見守っています。

(※)こも巻き：冬にこも(ワラを編んだもの)を樹木の幹に巻いて害虫を駆除する方法。寒い季節に病害虫が暖かいこもの中に集まる習性を利用。春こもの中で越冬した虫が動き出す前にはずして駆除する。

柏ヶ谷アラカルト

◎人口(4月1日現在)
5,847人
(男2,961人・女2,886人)

◎世帯
2,080世帯

◎面積
1.07平方キロメートル
【市全面積 26.48平方キロメートル】

◎地名の由来
地域の大部分が綾瀬の寺尾峰から目久尻川の浸食谷へ傾斜。「カシ」は傾斜地を表すことから、「目久尻川の谷へと傾斜してる地域」の意。